

静岡県立漁業高等学園 漁業のスペシャリストを目指す第57期生14人が入学
海で働くための技術・知識・体力を身に付け資格を取得

日本の水産業の担い手を育成する静岡県立漁業高等学園は、東方に秀峰富士、駿河湾を隔てて、伊豆の連山を眺望できる素晴らしい環境にある。静岡県立漁業高等学園は、漁業を志す中学校卒業以上の若者を対象に、全寮制1年間の講習で、漁業に関する知識と技能の教育・訓練を行うことで、漁船船員の即戦力となり、将来は漁船漁業の幹部職員となる者の養成を目的とし、これからの水産業を担う後継者の教育・育成を行っている。

4月7日、令和8年度（第57期生）の入学式が執り行われ、将来の日本の水産産業を担う14人の若者が入学し、参列者から祝福された。

入学式は開式の言葉に始まり、入学決定として入学生全員の氏名が呼ばれ起立すると、これからの1年間の学園生活を前にした生徒の緊張が教室に漲った。その後、園長式辞、来賓祝辞、来賓紹介、職員紹介と式典は進み、生徒代表から誓いの言葉が述べられた後、後援会から記念品贈呈が行われ、入学生を激励した。

来賓祝辞で中野弘道焼津市長は「本日、ここに第57期生として皆さんが漁業高等学園に入学されることは大変喜ばしいことです。慣れない全寮制での共同生活、実践的な授業や実習などありますが、今日の志を忘れず、勉学に励み、日本の漁業の未来を切り開く新たな戦力となることを、大いに期待しています。この学園を卒業した多くの優秀な先輩が水産界で活躍しています。日本の未来を担う皆さんがよりよい環境で学べるよう支援していきますので、頑張ってください」と述べ、学業に励む生徒を積極的に支援していくことと、将来的に水産業の担い手として、活気ある漁業をさらに盛り上げてほしいと生徒に伝えた。

昨今、国民に水産物を供給する漁業の重要性は一層増してきている。しかし、日本における水産業の現状は、漁業従事者の高齢化が進行し、新たな若年漁業従事者の人数も減少している。これからの日本の水産業を担う漁業後継者の育成は、その重要性が増してきており、水産業の盛んな静岡県は、昭和45年に県立の漁業高等学園を設立し、多くの卒業生を沖合・遠洋漁業へ送り出している。

「海員だより」